

外国語

英語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて450,485人で、受験者全体の約98.4%に当たる。

本テストの問題作成方針では、平成21年告示の学習指導要領で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能5領域のうち「読むこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価するとともに、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて、英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり事実と意見を区別して情報を活用したりする内容となっている。

第1問A 主に事実が述べられた資料から目的に応じて必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第1問B 主に事実が述べられた資料の情報を正確に読み取る力や、書かれていることを基に推論する力が問われている。

第2問A 商品を提供する側が示す事実と利用者の意見が併記された資料の情報を正確に読み取る力や、読み取った情報を基に推論し判断する力が問われている。

第2問B 条件により異なるサービスについて記された資料から、複数の情報を正確に読み取る力や、読み取った情報を基に第三者の意図を推論する力が問われている。

第3問A 個人的な経験を述べた文章を読み、情報を正確に読み取り書き手の意図を推論する力や、読み取った情報を基に視覚情報に再構成する力が問われている。

第3問B 個人的な経験を時系列でまとめた文章を読み、情報を整理しながら正確に読み取る力や、その文章の要点を把握し適切に反応する力が問われている。また、読み取った情報を基に書き手の人物像について推論する力も問われている。

第4問 複数の資料から得られる情報を統合したり計算したりして、目的に応じた資料として適切にまとめる力が問われている。また、読み取った情報を視覚的に再構成する力も問われている。

第5問 個人の体験記を読み、複数の登場人物の行動や意図、心情を正確に読み取る力が問われている。また、文章全体の趣旨を適切に理解する力も問われている。

第6問A 科学的な文章を読み、概要や要点を適切にメモにまとめる力が問われている。また、その過程で、文章で説明されている事柄を抽象化して言い換えたり、事象から得られる知見から教訓を読み取ったりする力も問われている。

第6問B 科学的な文章中の情報を正確に読み取り、論理的な思考力を発揮して要点を適切にスライドにまとめる力が問われている。その過程で、正確な読み取りに基づいて推敲する力や読み取った内容を抽象化する力も問われている。また文章の趣旨を適切に捉え、得られた情報から推論する力も問われている。

3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、個々の大問では「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文の分量に準じた問題文を扱っている。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすい。限られた時間内で正確に読み取り判断することが求められ、難易度が高い設問もあるが、幅広い受験者に対応する難易度の問題が、全体的にバランス良く配置されている。

第1問A 約170語で2つの設問。2つのハイキングコースの概要を適切に読み取る問題である。問題文の難易度は標準的であり、設問数とのバランスも適切である。

第1問B 約260語で3つの設問。ウェブサイト上の告知においてプロジェクトごとに内容が整理されており、分量も適切で読みやすい。問3では選択肢のStudent-volunteers sometimes adopt animals.を本文のmany volunteers become pet ownersと関連付けて答える必要があり、やや難しい。

第2問A 約270語で5つの設問。自転車店の広告として、整備プランやそれに対する顧客のコメントが分かりやすく区別して配置されており、分量・難易度ともに適切である。問5の設問は注意深い読み取りを求める良問である。

第2問B 約290語で5つの設問。ポイントサービスについて書かれた問題文の分量は標準的であり、設問数とのバランスも適切である。問5では、本文中で述べられている事業についての正確な読み取りが求められ、適切な言い換え表現と結び付ける上でやや難易度が高い。

第3問A 約210語で2つの設問。ブログにある情報を読み取る問題である。問題文はやや平易で、分量及び設問数とのバランスは適切である。問1の選択肢の語数は多いが、内容に照らして必然性があり適切である。

第3問B 約360語に3つの設問。オンライン日記に書かれている内容を読み取る問題である。リード文がやや長いですが、本文の量と難易度は標準的である。問1の出来事を時系列に整理して答える問題では、出題方法に戸惑った受験者もいたと思われる。問2は問題文を十分に生かした設問である。

第4問 約500語の問題文で5つの設問。ボランティアの情報が書かれたプリントと打合せのために作成したメモで3ページにわたっており、テキスト量はやや多い。また解答の根拠が、本文のみならずメモも含めて様々なところに散りばめられており、難易度が高い。

第5問 約840語で5つの設問。英文の量・難易度ともに標準的で、設問数とのバランスも適切であ

る。問2では、物語全体における登場人物の描写を時系列に整理することが求められ、「読むこと」の力を測る適切な出題ではあるが、難易度が特に高かった。問4は本文に基づき推論する必要がある、より深い理解に基づいて解答することが求められている。

第6問A 約550語で4つの設問。記事の英文と発表メモで3ページにわたっており、テキスト量はやや多いが、英文の難易度は適切である。各設問の選択肢の分量はやや多く、問題の検討に時間を要した受験者が多かったと思われる。問2と問3は、問題文と設問の間の言い換えを適切に理解することや、問題文には明確に述べられていないことを推論することといった、注意深い読み取りを求めており、難易度が高い。

第6問B 約640語で5つの設問。雑誌の記事と発表スライドで3ページにわたっており、テキスト量はやや多い。受験者の多くになじみのない専門用語はあるが、ディスコースマーカが適切に配置されていたり、英文中で言い換えがされていたりするなどの工夫により英文の難易度は調整されている。また、スライドの内容が本文の理解を促進する一助となっている。一方で、本文の内容の一部が受験者にとってイメージしにくく、個々の設問の選択肢もやや分量が多いため、限られた時間の中では負担が大きかったことが予想される。問3は実験の手順についての正確な読み取りを求めるもので特に難しい。

4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標を踏まえて、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況が設定されており、高等学校での学習の過程への配慮がある出題となっている。テキストの形式も、チラシや広告、レポート、日記、物語や説明文など多岐にわたっており、様々な場面で英語を運用する力を測るよう設計されている。また、場面設定に応じてアメリカ英語とは異なる表記が使用されるなど、英語の多様性にも配慮されている。文章表現は、学習指導要領に基づき、それぞれの設定に応じた適切なものとなっており、図表や挿絵も、出題内容に則して必然性のある扱いがなされている。

第1問A ハイキングに行く前にチラシを読んでいるという場面設定である。イラストは内容理解を助けるものとなっている。各コースについて文章で紹介するスタイルであるため、観光ガイドブックの一節という設定もあり得るだろう。設問はdirectionsやspotなど、日常的な英語表現の理解を測るように工夫されている。

第1問B ボランティアに興味があり、学校ウェブサイト上の動物ボランティア募集の告知を読んでいるという場面設定であり、その形式は実際の状況を反映している。動機が設定されているため、読み取るべき情報が明確になっている。

第2問A 自分の通うコミュニティ・カレッジで地元の自転車店の広告を読んでいるという場面設定である。実際にありうる場面で、広告の内容も現実的である。顧客の反応が各商品に対応付けて示されている体裁は設定に即しており、かつ読みやすい。設問は資料の性質に即した思考を求める適切なものである。

第2問B 短期留学の計画中に、留学先での交通機関のポイントサービスについての紹介文を読んでいるという場面設定である。問題文はサービスの推進委員会による宣伝文書という設定であるが、体裁の面で、サービス内容を文章だけで紹介しているのはやや不自然に感じられる。サービス内容ごとに小見出しを設けたり、利点を表にまとめたりするといった工夫ができたであろう。場面設定に即して£やcinemaなどのイギリス英語の表記が使用されている。

第3問A 旅行中に一人で外食することについて書かれたブログを読み、自分自身の意思決定に役立てようとしている場面設定である。問題文は内容・体裁・分量ともにブログとして現実味があ

る。設問は問題文の性質に即した思考を求めるもので適切だが、読み手の意思決定に関わるものではなく、場面設定に必然性があつたか疑問が残る。

第3問B 授業の一環で同級生のオンライン日記を読んでいるという場面設定である。ウェブページの学習活動が題材となっており、時代の流れに沿った題材選定と言える。また、顔文字が使用されるなど、本物らしさへの配慮も見られる。問題文中、Fridayのようにほぼ一義的に指示対象が決まる表現ではなくthe day I move inのような相対的表現が多用されているのは、問題作成上の都合とはいえ、やや不自然な印象を受ける。設問形式については、問1は、出来事の前後関係の理解を問う上で完答である必然性が低いように思われる。問2はウェブ上でのコミュニケーションではしばしば経験する言語使用を扱っており、新しい出題形式の提案として興味深い。

第4問 家族向けイベントのボランティア・スタッフとして会議のための資料を用意しているという場面設定である。2つの資料を関連付けながら読み取り、メモをまとめていくという実的な言語使用が求められ、設問にも反映している。イラストは資料の理解を補助する適切なものである。ただし、体裁について、24ページの表のActivities欄に活動名が記載されていないことで22ページの表に戻って確認する必要があるなど、解答の手間が増えているが、設問上の必然性はない。ページが切り替わる際には、設問に不都合がなければ情報を再録する配慮があつた方がよい。問3はメモの推敲を求めるもので、実際の言語使用を反映した出題と言える。問4は解答根拠がメモの中にあるのがやや異例である。

第5問 授業で課題文を読み、発表用のメモをまとめるという場面設定である。課題文は、若者が旅を通じて人間理解を深めるという題材の体験記であり、文章構成は標準的なものと言える。設問は、出来事の前後関係の把握や登場人物の人物像及びその変容についての理解を問うもので、テキストタイプに即した適切なものである。

第6問A 授業で課題文を読み、発表用のメモをまとめるという場面設定である。課題文は人間の認知の傾向に関する科学的な内容を扱うもので、抽象と具体を関連付けて述べる標準的な構成の文章である。英文中でキーワードとなる語が太字で示されるなど、読みやすさに配慮が見られた。設問は説明文というテキストタイプに即した適切なものである。問2では、各段落の内容を丁寧に吟味して2つ正答する必要があるが完答を求める必然性は低い。

第6問B サイエンスフェアでの発表に向けて準備をするために、資料を読んでいるという場面設定である。題材は「スマートファブリック」という新しい技術についての説明文であり、文体は標準的である。資料を読んで発表資料にまとめる言語使用は探究活動によく見られる。文章を基に推論したり資料を推敲したりすることを求める設問もあり、現今の学校教育の取組を意識した出題となっている。

5 ま と め（総括的な評価）

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを評価するテストとして適切であつたと言える。

題材については、学校生活に関わるものから社会生活に関わるものまで、また、日常的话题から科学的な話題まで、幅広く取り上げられており、テキストの形式も、チラシ・パンフレットやブログなどのオンライン記事など多岐にわたっている一方、他の学習者と共有できるオンライン日記など、ICT活用が進んだ教育現場の現状をよく反映したものも含まれている。様々な場面で適切に英語を運用する力を測ることができるよう工夫がなされている。また、場面設定に応じてアメリカ英語とは異なる表記が使用されるなど、英語の多様性への配慮もなされている。

出題内容については、様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題や、複数のテキストを関連付ける問題、与えられた文章に対するコメントの適切さを判断する問題、さらには、文章中の情報を統合して推論する問題など、コミュニケーションの受信者及び発信者としての思考力・判断力・表現力等を適切に測る出題となっており、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている。

各大問においては、実際のコミュニケーションを想定した具体的な目的や場面、状況などが設定され、それらの場面や状況において目的を達成するためにどのように思考し、判断して読み進めていけばよいかが設問として表されており、日々の授業づくりや言語活動を行う際の参考となる。また、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映された場面設定もあり、高等学校での学びに配慮され、大学入学者選抜の資料とするための工夫がなされたものと評価できる。過去の出題と比べても、与えられた文章や資料に照らして設問で問う内容がより妥当なものとなるよう、また、体裁の面でも受験者が取り組みやすいレイアウトになるよう改良されている。

本試験と比べ、扱う語数は減り、テキストの分量調整やそれに伴う体裁上の工夫が適切になされている。

今年度は平成21年告示の学習指導要領に対応した試験実施の最終年度であり、来年度からは平成30年告示の学習指導要領に対応した試験が実施される。その過渡期において、共通テストでも、多様な目的や場面、状況に応じて、情報を正確に読み取るだけでなく、得られた情報に基づいて推論したり、意思決定をしたり、他者に働きかけたりするなど、これまでの学習指導要領に基づきつつ、新たな学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」にも通ずる力を求める出題がなされている。

グローバル化の進展する社会において、大学に入学する者に求められる力も変化している。それに合わせて出題の在り方を柔軟に進化させようとする取組に敬意を表するとともに、今後、更に適切な出題がなされるよう期待する。